

突き動かすもの

松浦 俊博

「最初の患者さんの治療が開始されましたが、この時、事前の検証試験は十分すぎるほど行ってきたものの、陽子線が色も音もなく、どこに照射されたか見える術がないことに不安を感じたことを覚えています。この経験がもととなり、研究室では陽子線照射位置をリアルタイムで可視化するための技術開発を行っています」。昨年末、北大の工学研究院広報誌に娘が書いていた。

彼女は最先端の陽子線治療装置開発の産学連携プロジェクトに加わり、二〇一四年に装置を完成させて治療を開始した。この装置を使った最初の治療時に感じた前述の不安が引き金になり、新しい課題への挑戦が始まったようだ。突き進むきっかけは不安、言い換えれば理屈では説明できない心の動揺だと思う。与えられた仕事を唯こなすのではこのような動揺は起きない。仕事に集中している時に、何かに突き動かされることよりのめり込んでいくのだろう。

私にも思い当たる事がある。蒸気タービンの長い羽根の設計に携わり、最初に設計した羽根に運転から一年で割れが見つかった。若かった私は「なぜ？」と大きなショックを受けた。自家発プラントでの事故なので復旧を急ぎ、割れた羽根のみ交換して運転を再開した。振動が割れの原因であることは分かったものの、振動が大きくなる原因がわからない。それ以来ずっと考え続けることになった。

十年経ってもわからず、振動減衰部品を追加した羽根を準備して売り込み始めていた。そのころ大手電力の発電所に適用していた元の羽根に割れが頻発した。客は、振動が大きくなる原因も説明するよう求めた。困っていると、「うちの機械で計測していいから説明しなさい」と救いの手を伸べてくれた。半年かけて五台の機械で計測し、ある運転状態で振動が大きくなることがわかった。また、愚鈍な私でも計測を繰り返すうちに、さすがに原因が「衝撃波の振動」であることに気づいた。結局、解明には十五年くらいかかった。心の動揺がきっかけになると、ずっと続けられるものだ。

類似する経験を娘と共有できたような気がして嬉しい気分になっている。